

「プレルボール」

1 単元目標

- (1) 基本的な技能を習得し、ラリーを続けたり、ボールをつないだりして易しいゲームをすることができるようにする。 【技能】
- (2) 運動に進んで取り組み、規則を守り仲良く運動をしたり、勝敗を受け入れたりすることができるとともに、場や用具の安全に気を付けることができるようにする。 【態度】
- (3) チーム内での自分の役割を考えたり、ネット型ゲームに応じた簡単な作戦を選択したりすることができるようにする。 【思考・判断】

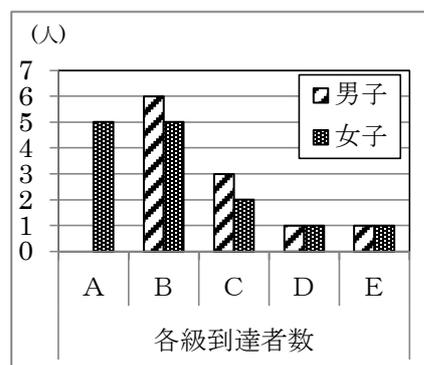
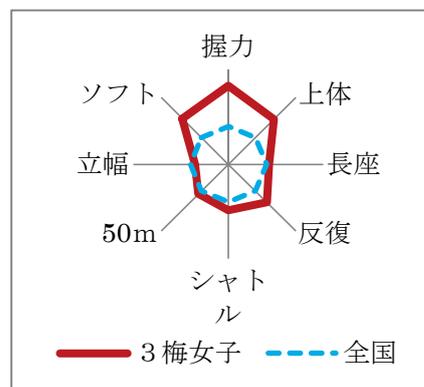
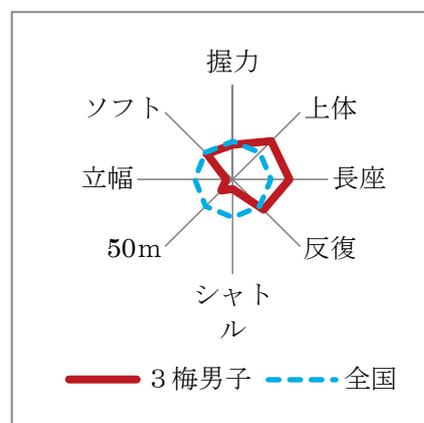
2 指導観

(1) 児童について

本学級（男子 11 名、女子 14 名、計 25 名）は、明るく活発で体を動かすことを好む児童が多い。体育科の授業も好きで、意欲的に取り組んでいる。また、休み時間には、友達と仲良く、ドッジボール、鬼ごっこなどの外遊びを楽しんでいる。

5 月に実施した新体力テストの結果、全国平均（H27）と比較すると女子は平均を上回っている種目が多いが、男子は跳躍力や持久力に課題が見られる。また、総合評価の A 判定が 5 人（20%）・B が 11 人（44%）・C が 5 人（20%）・D が 2 人（8%）・E が 2 人（8%）となっており、A・B 判定の割合が非常に多かった。その理由の一つとしては、本学級の児童が日頃から活発で、休み時間にも友達と声をかけ合って積極的に運動に親しんでいることが考えられる。一方、D・E 判定の児童については、運動能力の高い児童と一緒に楽しめるようなルールを考えてゲームに取り組みせたり、体力を高める運動を積極的に行ったりする必要がある。

昨年度、第 2 学年で、本学年の児童は中学年のプレルボールにつながる動きとして、ころころバレーボールを学習している。また、1 学期にはタグラグビーを学習した。どちらの運動も児童は意欲的に活動することができた。一般的にボール運動では、特定の児童が活躍してゲームが展開される傾向があるが、ころころバレーボール、タグラグビーの学習を通して、友達と協力しながらゲームを楽しむことができるようになってきている。さらに、ころころバレーボールやタグラグビーで学習したボールをつなぐための連携した動きを生かして、本単元のプレルボールにも取り組みせたい。



## (2) 教材について

プレルボールは、自陣の床に、こぶし又は前腕を用いてボールを打ちつけ、味方にパスをしたり、相手のコートにボールを返したりするゲームである。ネット型ゲームなので、作戦の通りに動いたり、自分の役割を考えながらプレーしたりすることができるという特性がある。ラリーを続けたり、相手が捕りにくいアタックをして得点したりするなど、仲間と力を合わせて勝敗を争うゲーム本来の楽しさや喜びを味わうことができる教材である。さらに、高学年のソフトバレーボールに必要な「レシーブ」「トス」「アタック」の動きの流れに慣れさせるのにも効果的な教材であり、指導内容の系統化を図ることができる期待される。

本単元では、ドリル練習などを繰り返して実践できるため、「プレル」「キャッチ」「アタック」といったボール操作の基本的な技能を習得することもできると考える。さらに、先行実践も多く、よりよい視覚的映像を児童に提示することができるため、基本的なルールやローテーションなどを視覚的に理解させることもできる教材である。

## (3) 指導について

本学級の体育科の指導はT Tで実施しており、主にT 1（学級担任）が全体への指導や配慮の必要な児童へ個別の支援を行っている。T 2（体育専科）は技術指導を中心にしており、本単元でも同様な役割分担にしている。

単元の前半では「プレルをうまくつなぐためにはどうしたらよいか」という課題を提示し、ラリーゲームを通して、ボール操作やルール、プレーの連携の仕方について学習を進める。ドリルゲームに取り組む時間を確保し、「プレル」「キャッチ」「アタック」の技能を楽しみながら習得させるようにしたい。ただし、本学級で顕著に見られる児童の体力差や運動経験の差に配慮して、プレルの際に平手打ちや両手打ちをしたり、途中でキャッチしたりしてもよいルールとし、全員がゲームやボール運動の特性に触れ、楽しく進んで学習しながら指導内容を身に付けることができるようにしたいと考えている。

単元の後半は、「どんなアタックがいいか考えよう」という課題を提示し、児童の実態を考慮しながら学習を深めていく。チームで取り組むタスクゲームを取り入れ、相手の捕りにくいところや相手のいないところへアタックするゲームを通して、得点するための工夫を考えさせたい。そして、チームで簡単な作戦を選択し、得点して勝敗を競うというゲーム本来の楽しさに迫らせたい。

また、単元全体を通して、友達と一緒に喜んだり、失敗を励まし合ったりする場を積極的に設けることで、仲間と運動する楽しさや喜びを十分に感じられるようにしたい。そのために、互いに認め合う「ほかほか言葉」を伝え合ったり、チーム内でハイタッチなどの喜びの表現を考えさせたりする。単元中盤からは、ゲーム間に教師の提示する視点を基に、互いのよさを見付けたり、アドバイスをしたりする場や振り返り活動「うごき名人」と「こえかけ名人」を設定することで、より一層仲間意識を高めさせたい。勝敗を素直に受け入れたり、公正に審判をしたりすることについても機会を捉えて指導し、学級みんなが楽しめる授業としたい。さらに、準備運動に「とうおんエクササイズ」を用いることとする。ゲームにつながる多様な動きの中で、しっかりと体をほぐすとともに、体力向上にもつなげたい。また、授業の流れをパターン化し、スムーズに活動を進めることで、運動量を十分確保したい。

本時は、まず、簡単な準備運動とドリル・タスクゲームを行う。ドリルゲームは、「プレルキャッチ」を、タスクゲームは「キャッチアタック」を行い、これまで学習した動きや技能を確認する。その後、課題を確認する場面では、

攻撃の工夫について児童に考えさせたい。「人のいないところを斜めにねらう」「前に弱く打ったり後ろへ大きく打ったりして攻める」といった児童の発言を基に、チームで攻め方を相談、選択させ、ゲームにつなげたい。1回目のゲームの後、チームで話し合う時間を取り、うまく行ったところや行かなかったところについて話し合いをさせる。2回目のゲームでは改善が見られるように相談させたい。2回目のゲームの際には、相手の捕りにくいところへシュートをしている児童や攻撃を工夫しているプレーを積極的に賞賛するよう心掛けたい。学習の振り返りでは、どのようにすれば得点できたかを振り返らせ、チームの作戦のどこがよかったか、友達を励ます声が出せていたかなどを確認させ、発表させるとともに、次時でまとめのゲームをすることを伝え、意欲を一層高めたい。

### 3 単元の評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元 の 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネット型ゲームに進んで取り組もうとしている。</li> <li>規則を守り、友達と励まし合って練習やゲームをしようとしたり、勝敗の結果を受け入れようとしたりしている。</li> <li>友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。</li> <li>ゲームを行う場や用具の使い方などの安全を確かめようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネット型ゲームの行い方を知るとともに、易しいゲームを行うためのゲームの規則を選んでいる。</li> <li>プレルゲームの攻め方を知るとともに、簡単な作戦を立てている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な技能を習得し、ゲームを楽しく行うための簡単なボール操作や動きを身に付けている。</li> </ul>



	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
学 習 活 動 に 即 した 評 価 規 準	<ol style="list-style-type: none"> <li>① プレールボールに意欲的に取り組んでいる。</li> <li>② 規則を守り、友達と励まし合って練習やゲームをしたり、勝敗の結果を受け入れたりする。</li> <li>③ 友達と協力して、用具の準備や片付けをしている。</li> <li>④ 学習のきまりを守り、安全に気を付けながら運動しようとする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① プレールボールの攻め方を知り、簡単な作戦を立てることができる。</li> <li>② チームの課題にあった練習方法を知り、考えたり選んだりできる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ボールの方向に体を向けたり、ボールの落下点や操作しやすい位置に体を移動したりすることができる。</li> <li>② いろいろな高さのボールを片手又は両手ではじいたり、狙ったところに打ち付けたりすることができる。</li> </ol>

4 単元の指導計画及び評価計画

学習過程	時間	児童の活動	○指導上の留意点 ◎努力を要する児童への支援の言葉	評価規準 <評価の観点> (評価方法)
知る・身に付ける	1・2	<p>プレルボールを知ろう</p> <p>① どうおんエクササイズ</p> <p>② ドリルゲーム ・プレルキャッチ ・アタックゲーム</p> <p>③ ラリーゲーム</p> <p>④ 学習の振り返り</p>	<p>○ ルールや安全について知り、学習の見通しをもたせる。</p> <p>○ プレルボールの映像を視聴し、運動の仕方について理解させる。</p> <p>○ プレル・キャッチ・アタックの基本的な技能をドリルゲームで身に付けさせる。</p> <p>◎ 両手で強く打とう</p> <p>◎ ひざをまげて速く動けるようにしておこう</p> <p>◎ 打つ方向へ体を向けよう</p> <p>◎ 二人の真ん中にバウンドさせよう</p>	<p>○ 学習のきまりを守り、安全に気を付けながら運動しようとする。&lt;関・意・態④&gt; (観察)</p>
身に付ける・高める	3・4・5	<p>プレルをつなげるにはどうしたらよいだろうか (3)</p> <p>① 準備運動</p> <p>② ドリルゲーム</p> <p>③ 動きの言葉の確認</p> <p>④ チームで練習 ネットありキャッチ・アタック</p> <p>⑤ ゲーム</p> <p>⑥ 整理運動</p> <p>⑦ 学習の振り返り</p> <p>よいアタックとはどんなアタックだろう (4)</p> <p>① 準備運動・ドリルゲーム</p> <p>② アタックについて話し合い</p> <p>③ タスクゲーム ・キャッチアタック (高く) ・コーンアタック</p> <p>④ ゲーム (3対3 ローテーション)</p> <p>⑤ 整理運動</p> <p>⑥ 学習の振り返り</p> <p>どんなボールがアタックしやすいだろうか (5)</p> <p>① 準備運動・ドリルゲーム</p> <p>② 打ちやすさについて</p>	<p>○ 基本的な技能を身に付けるドリルゲームに取り組ませる。</p> <p>◎ 味方へのボールは高くバウンドさせよう</p> <p>◎ ボールの方に体を向けよう</p> <p>◎ バウンドの一番高いところで打とう</p> <p>◎ ボールの落下点や操作しやすい位置に体を移動しよう</p> <p>○ 公正な態度で審判を務めたり、勝敗を素直に受け入れたりできるように指導する。</p> <p>◎ アタックはしっかり強く打とう</p> <p>◎ 両手だと狙ってアタックできるね</p> <p>◎ 点を取ったら交代しよう</p> <p>◎ ボールを待たずに動こう</p> <p>○ キャッチの児童の動き方について指導する。</p> <p>◎ 山なりになるボールがいいね</p> <p>◎ 胸の高さが打ちやすいよ</p>	<p>○ ボールの方向に体を向けたり、ボールの落下点や操作しやすい位置に体を移動したりすることができる。&lt;技①&gt; (ワークシート・観察)</p> <p>○ 規則を守り、友達と励まし合って練習やゲームをしたり、勝敗の結果を受け入れたりする。&lt;関・意・態②③&gt; (観察)</p> <p>○ チームの課題にあった練習方法を考えたり、選んだりできる。&lt;思・判②&gt; (観察・発表)</p>

	<p>話合い</p> <p>③ タスクゲーム ・ポイントアタック</p> <p>④ ゲーム</p> <p>⑤ 整理運動</p> <p>⑥ 学習の振り返り</p>	<p>◎ 二人の中間地点にバウンドさせよう</p>	
活かす 6・7・8 (本時) ・9	<p>リーグ戦に向けて攻め方を考えよう (6・7)</p> <p>① 準備運動</p> <p>② ドリル・タスクゲーム</p> <p>③ 攻め方について話合い</p> <p>④ 攻め方を相談する</p> <p>⑤ ゲーム</p> <p>⑥ 整理運動</p> <p>⑦ 学習の振り返り</p> <p>得点を取るためにはどうすればよいだろうか (8)</p> <p>① 準備運動</p> <p>② ドリル・タスクゲーム</p> <p>③ 攻め方の相談</p> <p>④ ゲーム (リーグ戦)</p> <p>⑤ 話合いタイム</p> <p>⑥ ゲーム (リーグ戦)</p> <p>⑦ 整理運動</p> <p>⑧ 学習の振り返り</p> <p>勝つためにはどうしたらよいだろうか (9)</p> <p>① 準備運動</p> <p>② ドリル・タスクゲーム</p> <p>③ 攻め方・守り方の相談</p> <p>④ ゲーム (リーグ戦)</p> <p>⑤ 話合いタイム</p> <p>⑥ ゲーム (リーグ戦)</p> <p>2 試合</p> <p>⑦ 整理運動</p> <p>⑧ 学習の振り返り</p>	<p>○ 相手の捕りにくいところへアタックするなど、得点する工夫を考えさせる。</p> <p>◎ どんなアタックがあったか思い出そう</p> <p>◎ どこへ打つといいかな</p> <p>○ 友達のよい動きを見つけている児童や、互いに教え合ったり高め合ったりしている児童を賞賛する。</p> <p>○ 公正な態度で審判を務めたり、勝敗を素直に受け入れたりできるように指導する。</p> <p>○ 身に付けた技能を生かして、ゲームに取り組ませる。</p>	<p>○ プレルボールに意欲的に取り組んでいる。〈関・意・態①〉(観察)</p> <p>○ プレルボールの攻め方を知り、簡単な作戦を立てることができる。〈思・判①〉(発表)</p> <p>○ いろいろな高さのボールを片手又は両手ではじいたり、打ち付けたりすることができる。〈技②〉(観察)</p>

<ドリルゲーム>

- ・ プレルキャッチ・・・「プレル」「キャッチ」の技能を高めるために行う。ボールの出し手が左右にボールを振り分け、動いてからプレルをする練習をする。
- ・ アタックゲーム・・・「アタック」の技能を高めるために行う。狙った高さを越えるようにアタックを高く打ったり、速く打ったりする練習をする。

<タスクゲーム>

- ・ キャッチアタック・・・2人ずつネットを挟んで縦長のハーフコートで行う。アタックを打ちやすいバウンドの練習や、アタックを前後に打ち分ける練習を行う。
- ・ コーンアタック・・・両手を使ったアタックで、置いてあるコーンに当てる。正確に打つ練習を行う。



ゲーム  
「ボールゲーム」



球技  
「ネット型」

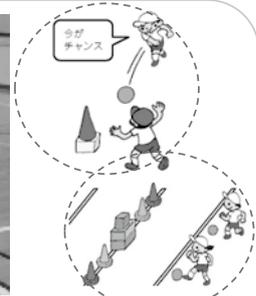
幼児期のおそび

小学校

第1学年  
及び  
第2学年

ゲーム「ボールゲーム」

コロコロバレーボール

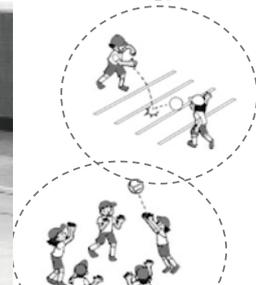


第3学年  
及び  
第4学年

ゲーム「ネット型ゲーム」

プレルボール

易しいゲーム



第5学年  
及び  
第6学年

ボール運動「ネット型」

ソフトバレーボール  
(アタックプレル)

簡易化されたゲーム



自陣のコート(中央付近)  
から相手コートに向け  
サービスを打ち入れる

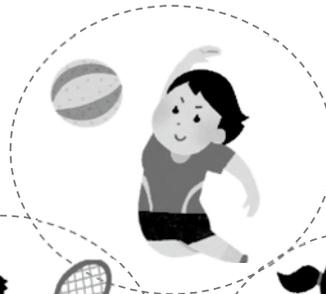


中学校

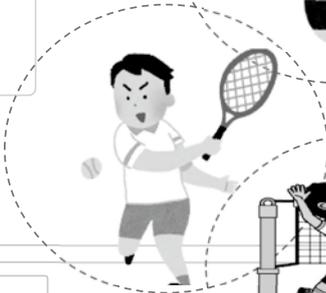
第1学年  
及び  
第2学年

球技「ネット型」

バレーボール  
卓球  
テニス  
バドミントン



第3学年

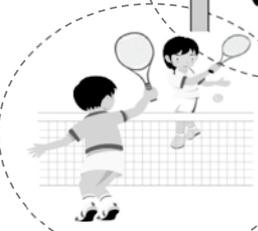


高等学校

入学年次

球技「ネット型」

バレーボール  
卓球  
テニス  
バドミントン



その次の  
年次以降

5 本時の指導

(1) 本時の指導

- ボールを操作しやすい位置に動いたり、色々な高さのボールをはじいたり打ちつけたりすることができる。 【技能】
- 規則を守り仲良く運動をしたり、勝敗を受け入れたりすることができる。 【態度】
- チーム内での自分の役割を考えたり、簡単な作戦を選択したりすることができる。 【思考・判断】

(2) 準備

ソフトバレーボール、移動黒板、プレル用ゴム紐、支柱、ワークシート

(3) 展開

学習活動	時間(分)	主な発問と児童の意識の流れ <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px solid black; padding: 2px;"> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習課題</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発問・指示</span> <span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">児童の意識</span> </div>	○ 指導上の留意点 ◎ 評価の観点 (評価方法)
1 準備運動をする。 2 ドリル・タスクゲームを行う。 ・プレルキャッチ ・キャッチアタック	8	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">プレルが前よりも上手になったよ。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">アタックが強く打てるようになったよ。</div>	○ 準備運動に取り組み、体をほぐす(T2)。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">しっかり踏み込んで強く打とう。</div>
3 本時の学習課題を確認する。	5	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">得点を取るためには、どんな攻め方がいいだろう。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">相手の間をねらうと、捕りにくいよ。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">前作戦を使うと相手が前に集まるよ。</div>	○ 本時の課題の確認をする(T1)。
4 チームの攻め方を相談する。	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">今日のチームの攻め方を相談しよう。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">アタックの時に相手のいないところをねらおう。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">前作戦や後ろ作戦を組み合わせよう。</div>	○ 攻撃の工夫を考えさせるために、チームで話し合わせる(T2)。 ○ 配慮の必要な児童を中心に声掛けをして回る(T1)。
5 ゲーム(リーグ戦)に取り組む。 ①ゲーム1	20  (8)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">リーグ戦で、うまく攻められるか確かめよう。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">アタックする前に相手の位置を確認しよう。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">相手を越えるような強いアタックを打とう。</div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">ボールの方へ体を向けよう。 膝を曲げて腰を低くしよう。</div>

<p>②話し合いタイム</p>	<p>(4)</p>	<p>次のゲームに向けて話し合おう。</p> <p>打つ前に相手を見て、いない方を狙うといいよ。</p> <p>強いアタックは下がって待つといいよ。</p>	
<p>③ゲーム2</p>	<p>(8)</p>	<p>話し合いを生かして攻めよう。</p> <p>狙ってアタックすることができたよ。</p> <p>下がって待ったら強いアタックがプレルできたよ。</p>	<p>◎ ねらったところにプレルしたり、アタックしたりすることができたか。(観察)</p>
<p>6 学習のまとめをする。</p>	<p>6</p>	<p>どんな攻め方で得点が取れましたか。</p> <p>相手チームのいないところを狙ってアタックすると点が取れました。</p> <p>弱く打ったり、強く打ったりしたら、点が取れました。</p>	<p>○ よかったところを賞賛し、全体に紹介することで、互いのチームの攻め方のよさを認め合うようにする(T1)。</p>
<p>7 整理運動・片付けをする。</p>	<p>3</p>		<p>○ 協力して片付けをさせる。</p>

6 研究の視点

【教材解釈力】

- 本単元の内容は、低学年「ころころバレーボール」、高学年「ソフトバレーボール」の中間に位置する教材として、基本的な技能を習得したり、得点するための工夫を考えたりするうえで、効果的であったか。
- ドリルゲームやタスクゲームで習得した動きは、ゲーム場面で発揮できるものであったか。

【授業実践力】

- 体育専科と学級担任の児童への関わり方は、児童が基本的な技能を身に付け、楽しみながら授業に取り組む方法として適切であったか。

## 【授業の様子】

### 準備体操



### ドリル・タスクゲーム



ドリル・タスクゲームでは、BGMに合わせて「プレルキャッチ」や「キャッチアタック」の練習を行った。曲が変わるタイミングに合わせて交代し、スムーズに取り組むことができた。また、正面だけでなく、左右に動きながら練習を行うことでボールを操作しやすい位置に動く技能が身に付き、ゲームの中でも生かされていた。

### 本時のめあての確認

得点を取るためには、どんな攻め方がいいだろう。



人がいないところをねらうといいね！

- まえさくせん      ○うしろさくせん
- あいださくせん    ○ななめさくせん

アタックや構えのポイント、前回までに子どもから出た作戦をまとめたボード



今日はまえ作戦  
とうしろ作戦を組  
み合わせてやっ  
てみよう！



## ゲーム 1



しっかり構えて待つ



ナイス！  
作戦がうまくいったね！

## 話し合いタイム

次はこの作戦をやってみよう！



ゲームでは、ゲームをしている子も外で応援している子も「ナイス！」や「ドンマイ！」などのほかほか言葉を使って気持ちを高め合うことができていた。また、話し合いの場では、自分たちのゲームを振り返り、次のゲームではどんなことをすればよいかについて積極的に話し合うことができていた。

## ゲーム 2

体育専科は学級担任と連携しながら、基本的な技能が身に付くように声をかけていた。また、場面ごとのプレーを称揚し、子どもたちが楽しく活動できるようにしていた。

運動を苦手とする児童に対しては、児童の横について手本を見せて説明したり、一緒に練習したりして積極的に支援を行っていた。



## 学習のまとめ

作戦通りにいった部分といかなかった部分があったけど、決まったときはうれしかったです。

次は上手くいくようにグループで話し合いましょう！



最後に、学級担任が感想を発表させ、自分たちのチームのめあてを振り返らせた。グループでの話し合いをさせたことで、次時の学習へ意欲を高めることができた。勝敗を大切にし、ゲームに真剣に取り組む子どもが多く見られた。

## 【研究協議】

### 研究の視点

#### (1) 教材解釈力

- ・ 本単元の内容は、低学年「ころころバレーボール」、高学年「ソフトバレーボール」の中間に位置する教材として、基本的な技能を習得したり、得点するための工夫を考えたりするうえで、効果的であったか。
- ・ ドリルゲームやタスクゲームで習得した動きは、ゲーム場面で発揮できるものであったか。

#### (2) 授業実践力

体育専科と学級担任の児童への関わり方は、児童が基本的な技能を身に付け、楽しみながら授業に取り組む方法として適切であったか。

### 自評

- 児童の技能面の配慮から、レシーブの場面でキャッチしてもよいことにし、キャッチ→キャッチ→アタックで攻撃させた。
- サーブに関しては、相手がプレルしやすいボールを投げるようにした。
- T1とT2の関わり方について、主にT1は学級全体のコーディネートを中心とし、T2は授業全体のコーディネートを、特に技能面を中心とする声掛けをした。
- タスクゲームでは、前に打ったり後ろに打ったりする練習をした。実際にできていなかったところもあったが、子どもたちなりに行っていた。
- 子どもたちからいくつか出てきた作戦を実践するのは難しかった。また、作戦は2つくらいが適当だと感じた。あえて、作戦を掲示したのは、参加された先生方に見ていただくためだった。(普段は明示していない。)
- 「かまえ」の声掛けから、ゲームが始まるよう指導した。
- チーム編成は、運動有能感をもとにし、バランスを考え教師が決めていった。
- ドリル・タスクゲームを先にしてしまったので、全体の流れに無駄があった。

### グループ別協議

- 授業の流れが、指導案通りではなかったが、準備運動、課題確認、チームの課題確認をした後、チームの作戦に応じたタスクゲームをするのもよい。
- 子どもたちのきびきびした動き、温かい言葉掛けがとてもよかった。運動量も十分に確保されていたのではないか。
- キャッチを入れることで、3段攻撃を意識した教材になっていた。
- 相手のことを意識した作戦を立てるべきではないか。1試合目と2試合目の組み合わせを同じにして、相手の動きに応じて理由付けした作戦を立ててもよかった。
- TTの役割を生かし、作戦タイムの時や、試合中に技術的な声掛けをもっとすべきであると感じた。
- ドリルゲームやタスクゲームで攻撃の仕方を練習して、それを生かして試合に臨めばよかったのではないか。
- 遠くへ打ったり近くへ打ったり、角度を変えて打ったりするための練習など、作戦に合ったドリルゲームがあるとよい。
- アタックをノーバウンドで打ち込むルールや、ネットに背を向けた状態でセットすることを指導していくことで、「ころころバレー」や「ソフトバレー」につながり、体系的な学習ができるのではないか。
- 学習のまとめでは、技能面でよかったところをもう少し具体的に取り上げてまとめたり、次時の活動の見通しや意欲付けにつながる言葉掛けがあったりすればよかった。

○我が国のスポーツ推進について（体育における今日的課題）

スポーツ推進へ向けた取り組みとして、第二期スポーツ基本計画が策定された。「インテグリティ（健全性・高潔性。分かりやすく示すと、人が見ていないところでも正しいことをすること）」というキーワードのもと、いかにスポーツの価値を教育していくかが、学校教育の現場で今後問われるところである。また、近年成人におけるスポーツ実施率が右肩上がりでも向上してきているが、平成27年度は低下している。この結果は、学校現場でも危惧する所であり、これからフィジカルリテラシー（体の活用力）、ヘルスリテラシー（健康情報の活用力）の力が求められる。さらに、保育園から高校生までの各校種の先生方に行われた、最近増えていると実感している子どもたちの「おかしさ」についてのアンケート結果によると、各校種において一番多い「おかしさ」は、アレルギーであった。また、「すぐ疲れる」と言う子どもも多くなっている。昔から各年代において行うことはさほど変わっていないのに、この言葉が出てくるということは、体力が低下している証拠である。これは、身体的要素だけでなく、精神的要素も含んでいる。

○今日の授業

①子どもたちの動きについて

今日の授業は、声が出ていて元気が表れたよい授業だった。できる、できないに関わらず、子どもたちが思い切り体を動かしていることがよかった。また、指導案に努力を要する児童への支援の仕方が記載されており、児童への具体的な言葉かけがあるのもよかった。

②ルールについて

学習活動に即した評価規準で、運動についての思考・判断に「プレルボールの攻め方を知り、簡単な作戦を立てることができる。」と記述されている。教師の「どのような作戦を立てた？」という投げかけに対して、子どもたちは「〇〇のときに、〇〇に攻める。」と答えていた。どんな時にこの作戦が有効なのかを考えられており、思考・判断の材料となっていた。しかし、このような思考・判断ができて一方、技能はまだ身に付いていなかった。そのため、アタックを両手ではじいたり、キャッチの場面を入れたり、ルールの工夫をすることが必要であった。

③ネット型ゲームの役割（構えについて）

準備姿勢をいかに徹底して指導するかが大切である。構えの姿勢は、次の動きにつながるものであるため意識させたことはよかった。しかし、セッターの動きをもう少し意識させてもよかったのではないか。味方の邪魔をしないように、次の動きを考えて、どのように動いていくかを考えさせることが必要である。また、今後はセッターが投げたボールに対してアタッカーが動くようにすることも考えていかなければならない。発達段階に合わせて、目の前の子どもが楽しめるように、どんなことを身に付けさせたいのかを考えて指導していくことが必要になってくる。そして、ゲームの特性に応じて有効な攻撃は何か、攻め方のバリエーションを考えさせるのも大切である。

④ドリル・タスクゲームについて

ボール運動では、ゴールイメージを明確に持って、ドリルゲーム、タスクゲームでは、どんな動きをすればよいのかについて考えておく必要がある。ボールを持たないときの動き、構えの姿勢の指導は、やはり大切にしたいところである。準備姿勢、予備動作など、常に次に行う姿勢を大切にするために、ボール運動に限定するのではなく体づくりの運動の多様な動きから身に付けていくことも考えられる。領域の縦割りにこだわり過ぎず、小学校の学級担任制を生かしながら、体づくり運動と関連させながら行えばよいのではないだろうか。体づくり運動と各領域との接続について、今後考えていかなければならない。

⑤体育専科、TTについて

TTの関わり方がよかった。2人の関係性はすぐにはできないものであり、打ち合わせなどが十分に準備されていたことが分かった。また、子どもたちが泣くぐらい真剣に取り組んでいたのが体育のよさだと思った。「スポーツで人生が変わる、スポーツで社会が変わる、スポーツで世界とつながる、スポーツで未来を創る」この言葉を胸にスポーツを通して、どのように指導していくのかを考えていく必要がある。

【参考資料】ゲーム・ボールゲーム・球技「ネット型」の内容の体系化

校種	学年等	単元等	技能の内容	ゲームの様相
小学校	第1学年 及び 第2学年	[ゲーム] ボールゲーム	簡単なボール操作やボールを持たないときの動きによつて的に当てるゲームや攻めと守りのあるゲームをすること。	○的当て遊びやキャッチボール ○的当て遊びや蹴り合い ○的当てゲーム、シュートゲーム、ドッチボール ○的当てゲーム、シュートゲーム、キックベースボール
	第3学年 及び 第4学年	[ゲーム] ネット型ゲーム	ラリーを続けたりボールをつないだりして易しいゲームをすること。	○ソフトバレーボールを基にした易しいゲーム ○プレルボールを基にした易しいゲーム
	第5学年 及び 第6学年	[ボール運動] ネット型	簡易化されたゲームでチームの連携による攻撃や守備によって攻防をすること。	○ソフトバレーボール ○プレルボール
中学校	第1学年 及び 第2学年	[球技] ネット型	ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること。	○バレーボール ○卓球 ○テニス ○バドミントン
	第3学年	[球技] ネット型	役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること。	○バレーボール ○卓球 ○テニス ○バドミントン
高等学校	入学年次	[球技] ネット型	役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所を巡る攻防を展開すること。	○バレーボール ○卓球 ○テニス ○バドミントン
	その次の 年次以降	[球技] ネット型	状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開すること	○バレーボール ○卓球 ○テニス ○バドミントン

ボールや用具の操作・ボールを持たない動き
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらったところに緩やかにボールを投げたり、転がしたり、蹴ったりすること。</li> <li>・ボールを捕ったり、止めたりすること。</li> <li>・ボールが飛んだり、転がったりしてくるコースに入ること。</li> <li>・ボールを操作できる位置に動くこと。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールの方向に体を向けたり、ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に体を移動したりすること。</li> <li>・いろいろな高さのボールを片手又は両手ではじく、打ちつけるなどして、相手のコートに返球すること。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自陣のコート（中央付近）から相手コートに向けサービスを打ち入れること。</li> <li>・ボールの方向に体を向けて、その方向に素早く移動すること。</li> <li>・味方が受けやすいようボールをつなぐこと。</li> <li>・相手コートにボールを打ち返すこと。</li> </ul>
<p>「ボールや用具の操作」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスでは、ボールやラケットの中心付近でとらえること。</li> <li>・ボールを返す方向にラケット面を向けて打つこと。</li> <li>・相手側のコートの空いた場所にボールを返すこと。</li> <li>・味方が操作しやすい位置にボールをつなぐこと。</li> <li>・テイクバックをとって肩より高い位置からボールを打ち込むこと。</li> </ul> <p>「定位置に戻るなどの動き」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の打球に備えた姿勢準備をとること。</li> <li>・プレイを開始するときは、各ポジションごとの定位置に戻ることに。</li> <li>・ボールを打ったり受けたりした後、ボールや相手に正対すること。</li> </ul>
<p>「役割に応じたボール操作や安定した用具の操作」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスでは、ボールをねらった場所に打つこと。</li> <li>・ボールを相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打ち返すこと。</li> <li>・攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げること。</li> <li>・ネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすること。</li> <li>・腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。</li> <li>・ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすること。</li> </ul> <p>「連携した動き」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。</li> <li>・連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くこと。</li> </ul>
<p>「役割に応じたボール操作や安定した用具の操作」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスでは、ボールをねらった場所に打つこと。</li> <li>・ボールを相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打ち返すこと。</li> <li>・攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げること。</li> <li>・ネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすること。</li> <li>・腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。</li> <li>・ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすること。</li> </ul> <p>「連携した動き」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。</li> <li>・連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くこと。</li> </ul>
<p>「状況に応じたボール操作や安定した用具の操作」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスでは、ボールに変化をつけて、ねらった場所に打つこと。</li> <li>・ボールを相手側のコートの守備のいない空間に緩急や高低をつけて打ち返すこと。</li> <li>・ボールに回転をかけて打ちだしたり、回転に合わせて返球したりすること。</li> <li>・変化のあるサーブに対応して、面を合わせてレシーブすること。</li> <li>・移動を伴うつなぎのボールに対応して、攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にトスを上げること。</li> <li>・仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすること。</li> <li>・ボールをコントロールして、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。</li> <li>・チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすること</li> </ul> <p>「連携した動き」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすること。</li> <li>・相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動すること。</li> <li>・仲間と連携した攻撃の際に、ポジションに応じて相手を引き付ける動きをすること。</li> </ul>

「レジボールで ポイントゲットだけ！」

学級担任： 二宮万岐子  
 体育専科： 長谷 晃徳

1 単元の見どころ

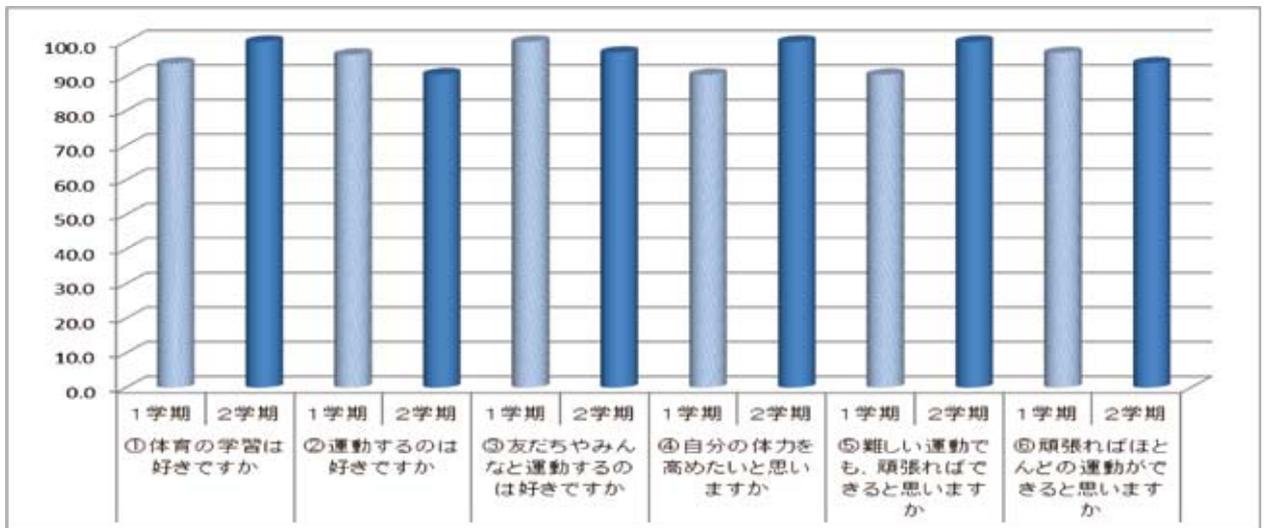
- (1) ねらったところにボールを蹴ったり、強く蹴ったりすることによって、的に当てるゲームや攻めと守りのあるゲームをすることができるようにする。 【技能】
- (2) ボールゲームに進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。 【態度】
- (3) 簡単な規則を工夫したり、攻め方を決めたりすることができるようにする。 【思考・判断】

2 指導観

(1) 児童について

本学級の児童（男子 15 名、女子 17 名、特別支援学級男子児童 2 名、計 34 名）は、明るく元気で、外遊びが好きな児童が多い。休み時間にはほとんどの児童が外でボール遊びや鬼ごっこなどをして楽しく遊んでいる。一方、読書や絵を描いたり係活動をしたりして教室で過ごす児童もいる。1学期に比べて、外で遊具遊びやボール遊びをする児童が増えてきているものの、ボールを投げる、蹴る等の動きのコツをつかむのが苦手な児童も見られ、個人差が大きい。これまでの体育授業では、遊びの要素を取り入れた準備運動や簡単な規則の鬼遊び、体づくり運動などを通して様々な動きを経験したり、1学期には、レジボールを使った投げるゲームも経験したりしている。特に、体育の授業では運動量の確保、互いの頑張りやよさを認め合える雰囲気づくりを大切に取り組んでいる。

【資料1 体育学習に対する意識調査】

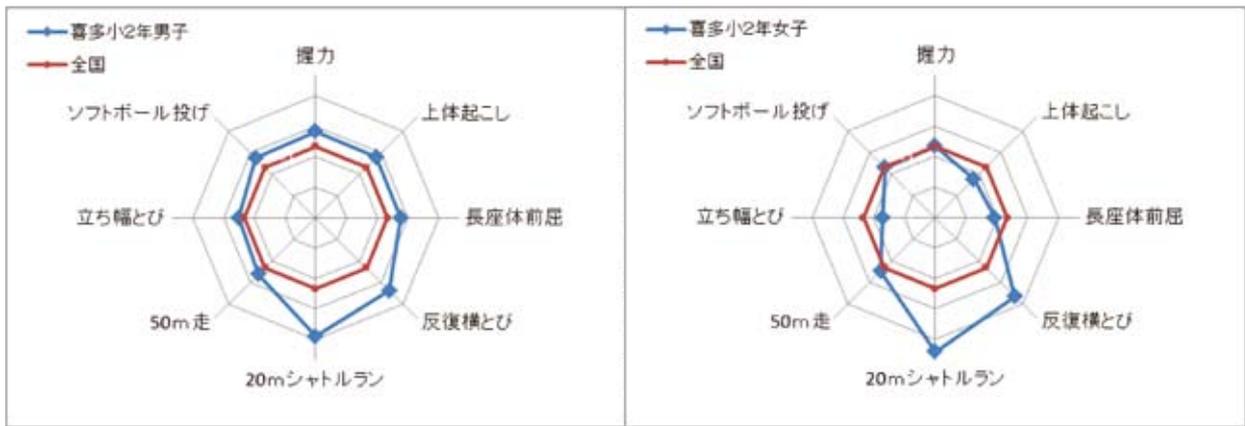


〈平成 28 年 11 月実施 対象 2 年竹組 32 名〉

資料1から「体育の学習は好きです」と答えた児童は100%、「運動するのは好きですか」と答えた児童も99.7%と高く、体育の授業をとっても楽しみにし、意欲的に活動していることが分かった。また、「友達やみんなと運動するのは好きですか」では96.9%、「自分の体力を高めたいと思いますか」でも100%の児童が「はい」と答えるなど、友達と関わり合いながら運動したり、自分の力を高めたいと思って運動したりしている児童が多いことも分かった。さらに、「難しい運動でも、頑張ればできると思いますか」でも100%、「頑張れば、ほとんどの運動ができると思いますか」でも96.9%の児童が肯定しており、自己の努力や練習によって運動ができると考えている児童も多かった。

このことから、体育の学習に対する関心・意欲は高く、自分の運動能力や技能を高めたいと考えて運動に取り組んでいる児童が多いことも分かった。

【資料2 新体力テストの結果】



〈平成 28 年 6 月実施〉

新体力テストの結果を全国平均値と比較すると（資料 2）、男子は全ての種目で全国平均を上回っているが、女子は 8 種目中 3 種目が全国平均を下回っていた。男子は反復横とびや長座体前屈、20m シャトルランで全国平均を上回っており、柔軟性や敏捷性、持久力が高いことが分かった。女子は、上体起こしや長座体前屈、立ち幅とびが全国平均より低く、筋持久力や柔軟性が低いことが分かった。男女とも、20m シャトルランは全国平均を上回っており、全身持久力が高いことが分かった。男子に比べ女子は運動経験が少ないことが要因として考えられる。以上のことから、1 年生時から系統性を踏まえた運動遊びを実践し、児童が楽しく活動する中で間接的に体力の向上を目指していけるよう意図的・計画的な指導が必要であると言える。

(2) 教材について

ボール運動系の領域として、低・中学年を「ゲーム」、高学年を「ボール運動」で構成している。ゲームは、低学年を「ボールゲーム」「鬼遊び」で、中学年を「ゴール型ゲーム」「ネット型ゲーム」「ベースボール型ゲーム」で内容を構成している。ボールゲームとは、簡単なボール操作の「ボール遊び」と簡単な規則で行われる「ボール投げゲーム」「ボール蹴りゲーム」をいう。「ボール蹴りゲーム」では、ねらったところへボールを蹴ることやねらったところにボールを強く蹴ることなどの簡単な技能を身に付けてゲームをしたり、ルールや学習の場を工夫したりしてゲームをすることが学習の中心となる。また、ルールやマナーを守り、仲間とゲームの楽しさや喜びを共有することが大切である。

本単元で使用するボールは、サッカーボールの代わりにレジ袋に新聞紙を詰めたボール（以下、レジボール）を使うことにした。レジボールの特徴は、コストがかからず、一人 1 個のボールを容易に準備することができること、あまり転がらず、弾まず、柔らかいので当たっても痛くないことから、運動が苦手な児童や初めてボールを蹴ることを体験する児童にとって、易しく扱えるボールである。このレジボールを使って、ねらったところへボールを蹴ること、強くボールを蹴ることをねらいとした的当て遊びや攻守が入り乱れない簡単なボール蹴りゲーム（シュートゲーム）を行っていく。これらの運動を通して、ボールを蹴る動作やボールを蹴るコツを身に付けさせるとともに、仲間と力を合わせて競争する楽しさや喜びを味わわせることができると考える。さらに、中学年において学習するラインサッカーやミニサッカーなどのゴール型ゲームへとつなげたい。

(3) 指導について

本単元は単元全体を通して、①ボール蹴り遊び（ねらったところへボールを蹴る遊び・強くボールを蹴る遊び）と②ゲーム（ボール蹴りゲーム：シュートゲーム）を中心に学習を進めていく。導入時のオリエンテーションでは、サッカーのシュートシーンの動画を見せ「ボールを蹴る」「ゴールへ向けてシュートする」という動きのイメージをもたせる。次に自分のレジボールを作り、自分の陣地にあるレジボールを相手の陣地へ蹴り返し合う「レジボール合戦」を行い、学習意欲を高めさせる。単元を通して、毎時間始めの準備運動や補助運動で、ブラジル体操やオノマトペを使って蹴る動作につながる動きづくりをした後、ペアでボールを蹴り合いながら、相手との距離を変えて正確に蹴り返す「島キック」を行う。ボール蹴り遊びでは、的の大きさや的までの距離、的の高さを変えた的当て遊びの場を用意した。この遊びから、ねらったところに蹴る、勢いを付けて強く蹴る、ボールを持っ

て蹴る、置いて蹴るなどのいろいろな蹴り方のコツを身に付けさせたい。次のボール蹴りゲームでは、1対1のゲームから2対2のゲーム（レジボールシュートゲーム）へと発展させていくことで、仲間と力を合わせて競争する楽しさや喜びを味わわせたいと考える。このような学習内容を毎時間繰り返していくことで、児童たちが学習スタイルに慣れ、見通しをもって活動することができるようにしたい。特に本時では、次時に行うレジボールシュートゲーム大会（2対2のゲーム）につなげるために、2対2のゲームの時間を多く確保し、4つのチームで合計得点を競わせることにした。また、本単元で行う遊びやゲームは児童の発達段階を考慮して、できるだけ簡単なきまりやルールで運動できるように設定し、児童ができるだけたくさんボールに触れるように工夫し、ボールを蹴るためのコツを見付けさせたい。

本学級の体育科の指導は、学級担任と体育専科教員によるティームティーチング（以下、TT）の指導体制をとっている。本単元での役割は、主にT1（学級担任）が全体への指導や特に配慮を必要とする児童への支援を、T2（体育専科教員）は技術指導を中心に連携しながら指導しており、本単元でも同様な役割分担にしている。

### 3 単元の評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームに進んで取り組もうとしている。</li> <li>・運動の順番やきまりを守り、勝敗の結果を受け入れて、友達と仲よく運動しようとしている。</li> <li>・友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。</li> <li>・ゲームを行う場や用具の使い方などの安全に気を付けようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールゲームの行い方を知るとともに、得点の方法などの規則を選んでいく。</li> <li>・ボールゲームの動き方を知るとともに、攻め方を選んだり見付けたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールゲームでは、的に当てるゲームや攻めと守りのあるゲームにおいて、簡単なボール操作やボールを持たないときの動きができる。</li> </ul>
学習活動に即した評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>①いろいろな活動に進んで取り組もうとしている。</li> <li>②運動の順番やルール（きまり）を守り、勝敗の結果を受け入れて、友達と仲よく運動する。</li> <li>③友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。</li> <li>④場や用具を大切に扱い、安全に気を付けながら運動している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ボールゲームの行い方（ルール）を知り、楽しくゲームができる場や得点の方法などの規則を選んでいく。</li> <li>②ボールゲームの動き方を知り、攻め方（や守り方）を見付け（考え）ている。（2年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ねらったところに緩やかにボールを投げたり、転がしたり、（強く）蹴ったりすることができる。</li> <li>②ボールを捕ったり止めたりすることができる。</li> <li>③ボールが飛んだり、転がったりしてくるコースに入ることができる。</li> </ul>

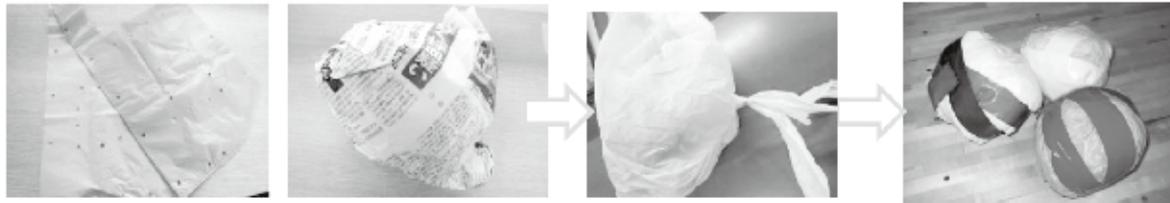
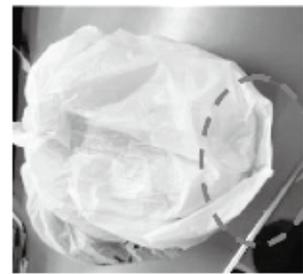
※「学習活動に即した評価規準」は、本単元「ボール蹴りゲーム」の8時間を示している。



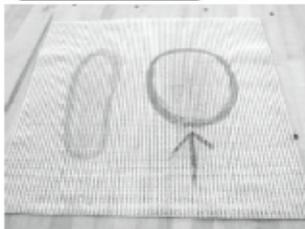
**【本単元で使用した教具】 レジポールの作り方**

180gから200g程度のレジボールが低学年には蹴りやすい。

- ①市販のレジ袋Mサイズを用意する。
  - ②レジ袋に穴あけパンチで複数穴を開ける（中の空気を抜くため）
  - ③新聞紙7～8枚を一枚ずつキャベツのように包んで丸めていく。
  - ④丸めた新聞紙をレジ袋に入れる。レジ袋2枚
  - ⑤結び目を縛る。結び目がほどけないように固結びにする。
  - ⑥ガムテープを巻く。四方向や五方向に工夫する。その際、丸くなるように形を整えていく。
- ※レジ袋の底のつなぎ目には、ガムテープをしっかり巻くと良い。



**島キック**



軸足の位置とボールの置く位置を決めて練習するマット。慣れてきたらマットなしで蹴れるように練習したり、少し助走をつけて蹴ったりして練習すると良い。

**す〜バンド**



足の甲と内側で蹴ることを意識するために色を付けたゴムバンドを巻いた。

**ダークみきゃんの的**



ミニハードルに取り付けることでボールが当たった時に倒れやすいように工夫した！



鈴をつけると、ボールが当たった時に音が鳴るので子どもたちが喜ぶよ！

**ポイントゲットだぜ！の的**



バスケットのゴールにフラフープの輪をのせたり、ハードルにケンステップやフラフープの輪を取り付けたりした。

**サッカーゴール**



コーンと門柱の筒と洗濯バサミとロープで作った。

4 単元における指導と評価の計画

(1) 1年 ゲーム 「ボール投げゲーム」(8時間扱い)

時	1	2	3	4	5	6	7	8
過程	つかむ	広げる			高める			確かめる
学習活動	オリエンテーション	めあて① シュートゲームにつながる動きを身に付けよう。			めあて② いろいろなシュートゲームをしよう。			ドッジボールをしよう。

(2) 1年 ゲーム 「ボール蹴りゲーム」(8時間扱い)

時	1	2	3	4	5	6	7	8
過程	つかむ	広げる			高める			確かめる
学習活動	オリエンテーション	めあて① ラインサッカーにつながる動きを身に付けよう。			めあて② いろいろなボールけりゲームをしよう。			ラインサッカーをしよう。

(3) 2年 ゲーム 「とって・なげて・レジボールゲーム」 1学期(8時間扱い)

時	1	2	3	4	5	6	7	8
過程	つかむ	広げる			高める			確かめる
学習活動	オリエンテーション	ボール投げ遊び めあて① 速くへレジボールを投げよう。 ゲーム 1対1のレジボールゲーム			ボール投げ遊び めあて② ねらったところへレジボールを投げよう。 ゲーム 2対2のレジボールゲーム			2対2のレジボールゲーム大会をしよう。

(4) 2年生 ゲーム ボールけりゲーム 「レジボールで ポイントゲットだぜ！」 3学期 8時間扱い

時	1	2	3	4	5	6	7 (本時)	8		
<h1>学習の流れ</h1>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーションを行う。</li> <li>学習の見通しをもつ。</li> <li>(シュートシートのD V Dを視聴する。)</li> <li>自分のレジボールを作る。</li> <li>約束やまわりを確認する。</li> <li>「レジボール合戦」をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「島キヤッチ」①</li> <li>・ゴロでキック (1分間でキックで何回返したか)</li> <li>(距離を遠くにして返す)</li> <li>バリエーションを工夫する。</li> <li>ボール蹴り遊び①</li> <li>・的をめがけて強く蹴る。(距離をいろいろ変えて的当て遊びをする。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「島キヤッチ」②</li> <li>・浮いたボールをキック</li> <li>ボール蹴り遊び②</li> <li>・いろいろなのをねらって蹴る。(高いや低いなどいろいろなのをねらって蹴る遊びをする。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「島キヤッチ」③</li> <li>・ゴロや浮いたボールをキック</li> <li>ボール蹴り遊び①②</li> <li>・的をめがけて強く蹴る。</li> <li>・いろいろなのをねらって蹴る。</li> </ul>	<h2>2竹カップ</h2> <h3>レジボールシュートゲーム大会</h3>			<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲーム</li> <li>・レジボールシュートゲーム 2対2 (ペア)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②</li> </ul>
	<p>場をいろいろ工夫した「レジボール合戦！ (チーム対抗)」をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①</li> <li>・レジボールシュートゲーム 1対1</li> <li>2対2 (ペア)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②</li> <li>・レジボールシュートゲーム 1対1</li> <li>2対2 (ペア)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②</li> <li>・レジボールシュートゲーム 2対2 (ペア)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①</li> </ul>		
<p>関・意・態</p>	①	①	①	②	②	②	②	①		
<p>思考・判断</p>					②					
<p>技能</p>				①						
<p>評価</p>		←	←	←	←	←	←	←		
		←	←	←	←	←	←	←		

5 本時の指導（7／8時間）

(1) 目標

- **ねらったところへレジボールを強く蹴ることができるようにする。** 【技能】
- 順番やルールを守り、勝敗の結果を受け入れ、楽しく活動ができるようにする。 【態度】
- 多く得点できるような攻め方（や守り方）を見付けることができるようにする。 【思考・判断】

(2) 準備

レジボール、的、掲示物、デジタイマー、ビブス、ボール蹴りマット、コーン、CDプレーヤー

(3) 展開

主なねらい・学習活動	時間	形態	教師の働きかけ・評価（☆）
1 準備運動や補助運動をする。	4	一斉	・蹴る動作につながる動きづくりができるような声掛けを行う。(T2)
2 レジボール合戦をする。	2	チーム	・意欲的にたくさんのボールが蹴れるような言葉掛けをする。(T1)
3 学習課題を確認する。	3	一斉	・前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認し、学習意欲を高める。(T1) ・絵やオノマトペを活用して課題を可視化し、解決に向けたポイントを共有する。(T2)
<b>学習課題 強く蹴って、ねらって蹴って、たくさんポイントをゲットしよう！</b>			
4 島キックをする。 ・ゴロや浮かせて蹴る。	4	ペア	・肯定的な関わりをしているペアを称揚する。(T1) ・うまく蹴ることができない児童には、ヒントボードを使ってボールの中心を蹴れるように声掛けをする。(T2)
5 ボール蹴り遊びをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px;">強く蹴る遊び</div> ⇕ 2分×2 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px;">ねらったところへ蹴る遊び</div> ・条件を変えて的当て遊びをする。	5	一斉	・条件の違ういろいろな的を使って、ねらったところに当てたり、強くボールを蹴ったりすることができるようにオノマトペを使って蹴る感覚をつかませる。(T1) ・時間内にたくさんボールを蹴ることを意識させ、蹴る回数を増やせるように言葉掛けをする。(T1, T2) ・支援の必要な児童には、ボール蹴りマットを与え、動きのポイントを助言する。(T2)
6 ボール蹴りゲームをする。 レジボールシュートゲーム ・2対2のゲーム（練習） ・2対2のゲーム（試合） （4チーム対抗で得点を競う）	20	ペア チーム	・ペアで協力し、励まし合いながらゲームをすることができるように声掛けをする。(T1) ・得点をたくさんとることができないペアには作戦ボードを使って支援する。(T2) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">☆ねらったところへレジボールを強く蹴ることができるか。 【技能】（観察）</div>
7 学習の振り返りをする。	5	一斉	・ペアで本時の学習について話し合わせ、感想や工夫したことを発表させる。(T1)
○○したら、ねらったところへレジボールを蹴ることができました。 ○○さんが○○な風にしてすごく強く蹴ることができていました。			
8 整理運動をする。	2	一斉	・使った部位をほぐす。(T2)

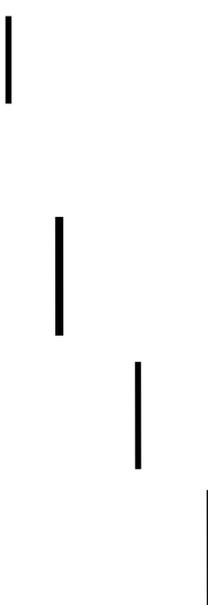
6 研究の視点

- 【教材解釈力】・・・レジボールはボールに親しむための教具として有効であったか。
- 【授業構成力】・・・場の設定やレジボールシュートゲームのルールは、ボールを蹴る操作やコツを段階的に身に付けるために適切であったか。
- 【授業実践力】・・・TTによる役割分担や、児童への指導や支援、特に体育専科の支援は、児童が動きのポイントを理解し、コツをつかむために適切な関わり方であったか。

**場の設定**

**ボール蹴り遊び**

ステージ



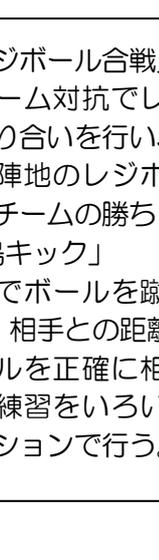
**強く蹴ることをねらいとした遊び**  
みきゃんに当てないようにダークみきゃんをねらおう。

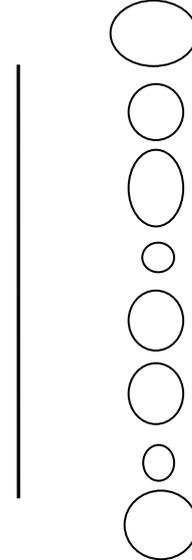


**ねらったところに蹴ることをねらいとした遊び**  
いろいろな高さの輪や大きさの違う輪をねらおう。持って蹴っても置いて蹴ってもかまわない。

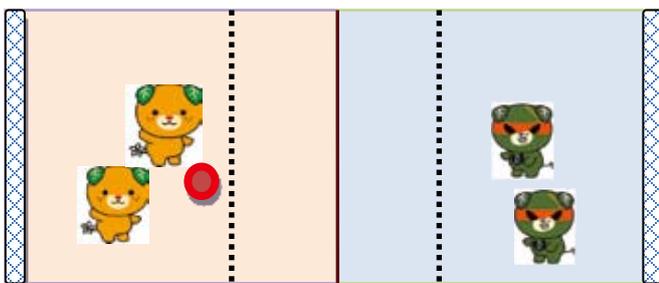


**「レジボール合戦」**  
※チーム対抗でレジボールの蹴り合いを行い、最後に自分の陣地のレジボールが少ないチームの勝ちとする。  
・「島キック」  
ペアでボールを蹴り合いながら、相手との距離を変えてボールを正確に相手に蹴り返す練習をいろいろなバリエーションで行う。





**ボール蹴りゲーム レジボールシュートゲーム**



**レジボールシュートゲームのルール**

- ・攻守が入り乱れない。
- ・守りは、手や足を使って止めてもよい。
- ・蹴るときは、地面に置いて蹴っても、手で持って蹴ってもよい。
- ・ゴールを通過すれば1点ゲット！
- ・見方にパスをしたり、ボールを持って移動したりして蹴ってもかまわない。



【授業の様子】

選手入場

今日もがんばるぞ！

手が元気よく、大きく(きれいに)ふれていて、すばらしい入場だよ！

レジボールカップ  
チームワーク賞



子どもたちは入場の曲に合わせて、各チームの旗を持って入場した。また、毎時間、毎時間(単元を通して)本気で取り組ませるために優勝カップを用意し子どもたちの意欲付けを行った。

活動1 《レジボール合戦》

チームで円陣を組んで、みんなで気持ちを合わせてがんばるぞ～

先生たちも邪魔をするよ！

バンザイ！

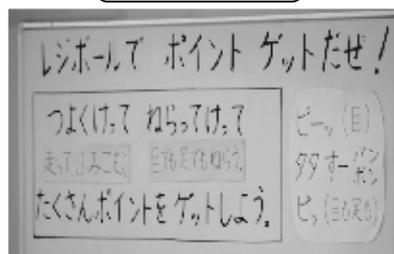


相手の陣地へ向けてレジボールを蹴り入れるレジボール合戦を行った。先生の邪魔を交わしボール蹴りゲームを楽しんだ。ボールの数え方も、子どもたちがレジボールの数が一目で分かるように工夫した。ボールを数えるときは、一列に並べて、その長さを比べることで、一目で判定できるように工夫した。

活動2 《本時のめあての確認・準備運動》

す～ボン！

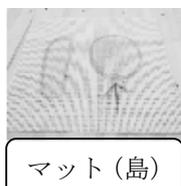
今日のめあて



前時の活動を振り返り、今日の課題の確認をした。今日のめあては「つよくけて、ねらってけて、たくさんポイントをゲットしよう。」強く蹴るためには、少し助走をつけて、ねらって蹴るには、蹴る前と蹴った後にしっかりと目標を見ることを確認した。また、準備運動ではスポーツオノマトペを使って蹴る動作の練習をした。

活動3 《島キック》

しっかり踏み込んで蹴るよ！



ボールと足の位置の目印にあるマット(島)の上にボールを置いて、相手に向かって蹴る練習をする。気を付けるポイントは、軸足を踏み込む位置とボールの中心を蹴ること。(軸足とボールの位置を考え、中心を蹴ること。)

**活動4**

《ボール蹴り遊び》

強く蹴って、  
ダークみきや  
んを倒すよ！



しっかりねら  
って、ポイント  
ゲットだぜ！



ねらったと  
ころを見て蹴  
ってるね！



強く蹴る、ねらって蹴るボール蹴り遊びを行った。

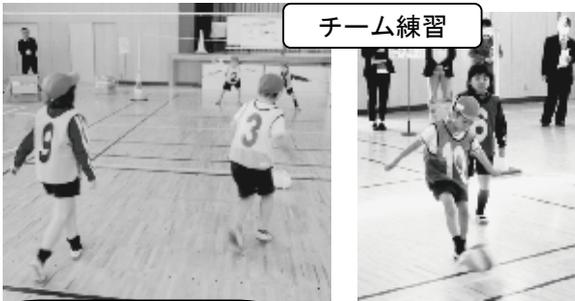
- ①ダークみきやんをねらって蹴る遊び②いろいろな高さや大きさの輪をねらって蹴る遊び

**活動5**

《レジボールシュートゲーム》

試合は2対2で行い、チームで練習した後は作戦会議  
を行い、別のチームと対戦した。

チーム練習



作戦会議



しっかりねらって蹴  
るぞ！



試合



ヤッター



**活動6**

《学習の振り返り》

蹴る前と蹴った後は  
目標を見て蹴まし  
た。



タ・タ・す〜バンを  
使うと強く蹴るこ  
とができました。



学習の振り返りでは、はじめにペアで振り  
返り（ニコニコタイム）をした後に、全体で  
振り返り（キラキラタイム）を行った。

はい！



レジボール大会へ  
向けてがんばろう  
ね！

## 【研究協議】

### 研究の視点

- ・ レジボールはボールに親しむための教具として有効であったか。
- ・ 場の設定やレジボールシュートゲームのルールは、ボールを蹴る操作やコツを段階的に身に付けるために適切であったか。
- ・ TTによる役割分担や、児童への指導や支援、特に体育専科の支援は、児童が動きのポイントを理解し、コツをつかむために適切な関わり方であったか。

### 自 評

- ・ 本単元は、最後に大会を開きイベント性をもたせるスポーツ教育という考え方で単元を構成していった。7時間目ということもあり、単元前よりも上手に蹴ることができるようになってきたので、コートを広くしたり少し難しい条件設定で挑戦させたりしながら活動を工夫した。キックの際、軸足の位置は様々であったが、ボールの中心を蹴ることを大切にした。また、たくさん蹴る経験を保障することをねらいとした。ゲーム中の作戦は、2年生なりの簡単な作戦である。特別支援学級の児童も夢中になって活動する姿が見られ、この教材の魅力を感じた。(体育専科)
- ・ 学級担任として、児童の意欲化を図ることを大切にした。学級の実態に合ったルール設定をしていった。図工の時間にチームの旗を作ったりボールの数を掛け算で数えたり話合いの仕方を国語の時間に扱ったりしながら教科の枠を超えた横断的な学習を行った。ルールを守りながら学習を進めるといふ低学年の学習で大切なことを本単元で学ぶことができ、学級経営にもよい影響を与えてくれた。学習カードを使わず振り返りを行ったが、2年生の段階で書く活動を取り入れた方がよかったか、意見をいただきたい。(学級担任)

### グループ協議

- レジボールは有効であった。子どもたちは楽しみながら学習できていた。大きさ、重さ、鈴を入れるなどいろいろな工夫も可能なのではないか。
- 学習規律が守られたすばらしい授業であった。子どもが生き生きと活動していた。
- 足のバンドがよかった。専科の先生も靴下を上に入れてバンドを見えやすいようにしていた。
- ねらいと評価がつながっていて分かりやすい。
- 中高学年のサッカーにどうつないでいくのかが課題なのではないか。
- 評価について話し合ったが、振り返りが発表して終わったように思えた。学習カードに項目を作り、丸を付けるだけでも自己・相互評価ができるのではないか。
- オノマトペとして「すーバンッ」「すーボンッ」という言葉を使っていたが、強く蹴る、ねらって蹴るの違いが分かりにくい。
- 今日のめあてに沿ったのであれば、島キックではなく他の活動を取り入れた方がよかった。
- 作戦タイムでは強く蹴る、ねらって蹴ることのどちらを選ぶかについて話し合うこともできたのではないか。選ぶことによってその後の振り返りにつながるのではないか。
- 低学年における「作戦タイム」、「話合い」の難しさについて協議した。攻め方について話し合うのもいいが、自由な発想やアイデアも重視すべきではないか。

## ○ 次期学習指導要領に向けて

今、ちょうど学習指導要領改訂の時期になっている。昨年（2016年）の12月に学習指導要領の改善や必要な方策等を示した答申が出た。これに沿って具体的な作業が進んでいく。今回の改訂にあたっては、今の子どもたちの現状や課題から議論をスタートしている。学習指導要領が全面実施されるのは2020年、東京オリンピックが始まる年である。2020年の子どもたちからというのではなく、今の子どもたちにとっても変えるべきところは変えていく必要がある。

体育科で課題になっているのは、運動する子としない子の二極化である。運動しない子をそのままにするのではなく、体育授業で運動を楽しめるようにしていくことが大切である。また、今回の改訂では「する・みる・支える・知る」がキーワードになっている。スポーツには多様な関わり方があり、このことは体育だからこその特徴といえる。今日のゲームであれば、プレーをしていた「する人」と応援をしていた「みる人」は違う立場でゲームに参加し、作戦会議でそれぞれの立場から意見を述べていた。体育授業を通して多様な関わり方を学んだり、異なる立場で対話したりしながら学習するのは体育授業の特徴といえる。

また、保健にもいくつか改善点がある。現在、健康問題についての情報があふれている。それらを踏まえ、保健の内容も検討していかなくてはならない。心の問題など現代的な健康課題も取り上げていく必要がある。

さらに、今回の改訂では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」という三つの柱で目標・内容・評価が整理された。これは、全く新しいことではなく学校教育法で規定されている学力の要素と共通している。簡単に言うと「知識・技能」はインプットするもの、「思考力・判断力・表現力等」はアウトプットするもの、これらを両輪として捉えながら、目標達成に向けてそれらを方向付けていくのが「学びに向かう力・人間性等」といえる。また、体育でも「主体的・対話的で深い学び」の学習過程のモデルが示されている。まずは、楽しい、やってみたい、勝ちたい、もっとうまくなりたいといった子どもの運動欲求を引き出すことから学びはスタートする。今日の授業でも優勝カップがあり、子どもたちに運動に対する動機付けが図られていた。次に、体育授業では、子どもたちが運動に関する課題解決を図ることがねらいの一つになっている。「知識・技能」を身に付けるだけでなく、「思考力・判断力・表現力等」を高めていくことが学習の中核になる。そのことは、「アクティブラーニング」としても注目される。例えば「蹴り方」「捕り方」「投げ方」は知識であって、それが身に付くと技能になる。こうした知識や技能を身に付けていくことも大切なことだが、一方で、これまで学習した内容を関連付けたり、活用を図ることも重要である。サッカーで学習した動きはバスケットボールで学習する動きと類似している。今日の授業で言えば、1学期にボール投げゲームを学習しており、動きの形態は異なるが、学習の進め方や展開など、類似するところもあり、それらを関連付けたり、振り返りながら学習できると学びの質が向上する。活動を楽しみながら、できるようになる・わかるようになると、もっと楽しくなるし、またやってみたいと思う。それが学びに向かう力として求められていることではないか。授業中の関心・意欲も大事だが、単元が終わった時の関心・意欲も大切である。やってみたいからスタートし、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を学んで結果としてもっとやってみたい、単元のゴールに向けて子どもたちが真剣に課題解決する場を創っていくことが求められる。新しい運動に出会って、挑戦して、最後に感動を呼ぶ授業。まさしく今日の授業がそうであった。

## ○ 研究の視点について

## ① レジボールについて

跳ばない・転がらない・痛くない教具として有効であった。穴をあけていたのは、蹴っても破裂しないようにしている工夫である。新聞紙の巻き方もキャベツ巻きという方法を取り入れ

ていた。新聞と新聞の間にどれくらい空気を入れるかによって蹴った時の感触や当たったときの痛さが違ってくる。今日のレジボールは、痛くなく、かつ、蹴った時に少し重さを感じていてちょうど良かったと思う。また結び目を切ったり、レジ袋の底のつなぎ目に沿ってテープを巻いて破れにくくするなど、様々な工夫がされていた。このレジボールを使用したボール投げゲームやレジハンドボールの実践もある。教具ひとつで学習が変わってくる。サッカーボールへの移行も質問に出ていたが、まずは身に付けさせたい動きから考え、「この動きを身に付けるためには、この道具で」と考えるのが重要なのではないか。例えば、発達の段階によっては、サッカーボールの空気を抜いて使用してもよい。

② TTの機能について

愛媛県は体育専科の先進的な県である。今日の授業では、アドバイザーとして、インストラクターとして、コーディネーターとしての役割、機能が十分果たされていた。頭文字をとれば「ア・イ・コ」だが、じゃんけんで言う「お相子」の意味もある。体育専科と学級担任が平等にお互いの役割を果たしていくことが大切である。今日の授業では、授業のマネジメントは学級担任、技術ポイントの説明は体育専科という役割分担があった。そして、互いに子ども一人一人によく関わっていた。1+1=2以上という関係が築けていた。

○ 今日の授業について

① レジボール合戦

子どもたちがたくさんボールを蹴る経験を保障していた。たくさんボールを準備するとなるとマネジメントが行き届かなくなる場合もある。今日は片付けなどにも競争を取り入れたり、ボールの並べ方も工夫したりしながらテンポよく学習が展開されていた。競争することで勝ち負けのチームが出てくるが、負けたチームも拍手をしっかりと行っており、態度形成がしっかりとされていた。

② 補助運動

長谷先生が一生懸命運動を行っていた。先生が頑張るからこそ子供たちも頑張る。一方、動きとしてインサイドキックを紹介していたが、足を外側にひねって蹴らなければならないので、構造的には難しい。低学年では思い切り体を動かす経験を重視してもよい。

③ めあて

今日の授業は「強く蹴って、ねらって蹴って」ということが課題であった。子どもたちは「すーバンッ」「すーボンッ」だけではなく「ピッ」という言葉を取り入れていた。「蹴ったボールを目で追う」ということができていた。

④ ボール蹴りゲーム

まずは自分たちのチームで試合を行い、話合いの時間を持ち、そして、他チームと対戦する。「やってみて、考えて、またやってみる」という学習の流れが大変良かった。

⑤ 学習カード

書くよさは、前の時間やこれまでの時間とのつながりが見えることである。しかし書くことは時間が必要である。授業の中でどのような効果を期待するかによって変わってくる。

○ 最後に

子どもたちが本気の課題解決を行えるかが今後の授業で重要となる。喜多小学校が学校全体で体力向上に取り組んでいた。この取り組みを県内に発信して頂きたい。今後も「シンプルだけど奥深い」授業を追求して行ってほしい。